

2023年1月13日

SUBARU 新型「インプレッサ」(日本仕様車・プロトタイプ)を初公開

～STI パーツを装着したモデルを東京オートサロン 2023 に出展～

【訂正】

2023年1月16日 株式会社 SUBARU 広報部

2023年1月13日のニュースリリースに一部内容の誤りがありました。お詫びして下記の通り訂正いたします。

<衝突安全>項目の記載の一部を訂正

誤)対前面衝突では、バンパービームを車両外側まで拡大するとともに、衝突サブフレームを追加。

正)対前面衝突では、バンパービームを車両外側まで拡大。

SUBARUは、東京オートサロン 2023^{*1}において、新型「インプレッサ」(日本仕様車・プロトタイプ)を初公開しました。



新型「インプレッサ」(日本仕様車・プロトタイプ) STI パーツ装着車

「インプレッサ」は、クラスを超えた高い安全性能と動的質感を兼ね備えた SUBARU ラインナップのスタンダードモデルです。第6世代となる新型「インプレッサ」は、日本市場における名称を「インプレッサ SPORT」から「インプレッサ」としました。歴代「インプレッサ」はスポーティかつカジュアルなデザイン、愉しくなる優れた運動性能、安心できる先進安全装備、とことん使えるユーティリティを兼ね備えたモデルです。今回、新型「インプレッサ」はそれらをしっかり継承しながらも、最新の SUBARU の技術を多数搭載し、安全性能や動的質感を大幅に進化させました。

日本市場における新型「インプレッサ」の受注は、今春以降を予定しています。

【新型「インプレッサ」(日本仕様車・プロトタイプ)の主な仕様^{*2}**<デザイン>****・エクステリア**

行動的なライフスタイルを後押しする、躍動的でスポーティなエクステリアとし、インプレッサの個性をより高めました。引き締まったスピード感ある鋭いシェイプと、大地を駆けだす力強さを感じさせる張り出したフェンダーによりスポーティさを表現し、クルマを操る愉しさを際立たせています。

また、ボディカラーに新色のサンブレイズ・パールを設定しました。

・インテリア

ドライビングとアクティビティの時間を自然体で過ごせる使い勝手の良いカジュアルなインテリアにしました。さまざまな機能を集約した大型の 11.6 インチセンターインフォメーションディスプレイをインテリアの中央に配置した、最新の SUBARU 共通のインターフェイスを採用し、実用性と利便性を高めています。

<動的質感>**・骨盤を支えるシート構造**

大学医学部との共同研究による医学的知見を取り入れた仙骨を押さえて骨盤を支えるシート構造を採用。仙骨を押さえることで、車体の揺れが頭部へ伝わることを防ぎます。これにより、ステアリング操作に伴うロールや、

路面のうねりで身体が大きく揺さぶられたときでも、快適な乗り心地を実現しています。

・シートの固定構造の変更

シートと車体の固定構造を、従来型のブラケットを介した方法から、シートレールを直接車体に固定する構造に変更しました。これにより、取り付け部の剛性と振動収束性が向上。シートそのものの揺れを抑え、快適な乗り心地を実現しました。

・高減衰マスチックによるルーフの共振抑制/音の収束性向上

ルーフパネルとブレースの間に、振動の吸収性が高く、制振性に優れた高減衰マスチック(弾性接着剤)を採用しました。これにより、ルーフの振動によって発生する騒音の音圧を低減するとともに車内音の収束性が向上し、快適な乗り心地を実現しました。

・スバルグローバルプラットフォームの深化

従来型の優れた操縦安定性・乗り心地を支えた「スバルグローバルプラットフォーム」をさらに深化させました。フルインナーフレーム構造の採用や、構造用接着剤の適用拡大、サスペンション取り付け部の剛性向上など、最新の知見や技術を盛り込みました。これにより、高く評価されてきた従来型をさらに上回る、高いレベルの動的質感を実現しました。

・フルインナーフレーム構造

従来型はアッパーボディとアンダーボディを別々に組み立てた後、接合していたのに対し、新型ではボディ全体の骨格部材を強固に組み立ててから、外板パネルを溶接する「フルインナーフレーム構造」を採用。ボディのさらなる高剛性化と軽量化を実現しました。微小な変形やたわみを抑えた高剛性ボディにより、サスペンションやエンジンマウントが本来の機能をあますことなく発揮できるようになりました。これによって、操縦安定性を向上させるだけでなく路面からの振動の収束性を高め、質感が高くフラットで快適な乗り心地も実現しました。

・2ピニオン電動パワーステアリング

応答遅れが少ないスポーティで上質なステアリングフィールを実現する2ピニオン電動パワーステアリングを採用。ドライバーのステアリング操作軸をモーターアシスト軸から分離した構造とし、操舵初期のフリクションを低減。リニアでなめらかなトルク伝達を可能としています。また、操舵角に応じてステアリングのギア比が変化する「VGR(Variable Gear Ratio)」を継続採用。低速時の取り回しの良さと高速走行時の直進安定性を両立しています。

・電動ブレーキブースター

優れた昇圧性能を持つ電動ブレーキブースターを採用。プリクラッシュブレーキで、自転車の急な飛び出しなどへの応答性が向上しました。また、全車速追従機能付クルーズコントロール使用時の、急な先行車の割り込みなどに対する素早い減速も実現しています。

・パワートレーン

モーターアシストの軽快な走りが愉しめる2.0L e-BOXERを採用。加えて、エンジンやリニアトロニックにも振動や騒音を低減する改良を施しています。

<安全性能>

・デジタルマルチビューモニター

4つのカメラ映像を合成して車両周囲360°を映し出す3Dビュー/トップビューを採用し、車両周囲の視認性を高めました。また、画面表示には新採用のセンターインフォメーションディスプレイを使用して、従来型のマルチファンクションディスプレイより大きく高精細な画面により、見やすさと使いやすさを向上させています。

・フルLEDハイ&ロービームランプ+LEDコーナリングランプ

ハイ&ロービームランプ、ポジションランプに加えターンランプもLED化。さらに交差点での右左折時などに進行方向を照らす、LEDコーナリングランプを新たに採用。夜間の視認性を向上させました。

・新型ステレオカメラユニット

画角を従来型の約2倍と大幅に拡大。画像認識ソフトや制御ソフトを改良し、より広く遠い範囲まで認識できるようにしました。また、フロントガラス取り付け式に変更するとともに、レンズフードを採用し、レンズに誤って触れることがないようにしました。

・広角単眼カメラ

低速での走行時に、新型ステレオカメラよりも広角かつ、二輪車/歩行者を認識できる単眼カメラを新採用。プリクラッシュブレーキで対応できるシチュエーションを拡大し、歴代アイサイトとして最高の性能を実現しました。

<衝突安全>

従来型でも評価の高かったスバルグローバルプラットフォームの衝突安全性のポテンシャルをさらに引き上げました。万が一の衝突に備え、乗員保護はもちろん、歩行者保護も含む衝突安全性能を磨き上げています。対前面衝突では、バンパービームを車両外側まで拡大。対車両の衝突事故において自車の衝突安全性だけでなく、

相手側の乗員を守る性能(コンパティビリティ)も高めました。また、レガシィ アウトバックと同様、実際の正面衝突事故を想定して、コンパティビリティを評価する新たな前面衝突試験「MPDB (Mobile Progressive Deformable Barrier)」を導入しています。

<つながる安全>

コネクティッドサービス「SUBARU STARLINK」がさらに進化。従来の「つながる安全」機能により万が一の際の安心感を高めるとともに、利便性や快適性を高める新サービスとして、スマートフォンアプリでのリモートロック／アンロック機能、リモート車両位置確認機能などの、コネクティッドサービスの領域拡大を図りました。

<パッケージング&ユーティリティ>

・室内空間

従来型同等のゆとりある室内空間を実現しました。あらゆる体格のドライバーが最適なドライビングポジションを取れるだけでなく、長距離ドライブでも乗る人全てが疲れにくく、ゆとりある移動時間を提供します。

・荷室スペース

従来型同等の大きな荷室開口部と必要十分な荷室容量を確保。6:4 分割可倒式リヤシートによって荷室を自由に拡張することで、大きな荷物や長尺物の搭載も可能です。

・インフォテインメントシステム

11.6 インチセンターインフォメーションディスプレイの大画面がもたらす使い勝手の良さや、先進的ですがっきりとしたデザインはそのままに、スマートフォンとの連携機能を大幅に強化。普段使っているスマートフォンと同じ感覚でシームレスに扱えるインフォテインメントシステムに進化しました。

【新型「インプレッサ」(日本仕様車・プロトタイプ) の主な諸元(開発目標値)】

全長×全幅×全高(mm)	4,475×1,780×1,515*3
ホイールベース(mm)	2,670
エンジン	2.0L DOHC 直噴+モーター(e-BOXER)
トランスミッション	リニアトロニック
ステアリング	ラック&ピニオン式
サスペンション形式[前/後]	ストラット式独立懸架 / ダブルウィッシュボーン式独立懸架
ブレーキ[前/後]	ベンチレーテッドディスク / ベンチレーテッドディスク
タイヤサイズ/ホイール	215/50R17
駆動方式	AWD

*1: 千葉県千葉市の幕張メッセにて、2023年1月13日～15日に開催。

*2: グレードによって仕様は異なります。

*3: ルーフアンテナを含む